

第4回太田市ごみ減量市民会議 議事録

○日 時

平成25年12月25日（水）13時30分～15時30分

○場 所

太田市清掃センター3F厚生室

1. 開 会

2. あいさつ（太田市ごみ減量市民会議 会長 高橋 輝明）

3. 報 告

①第1回ごみ減量市民会議提言書編集委員会の報告及び提言書（案）の説明について

1) ごみ減量市民会議提言書の基本的な考え方

過去3回の会議の中で、各委員から様々な意見をいただいたが、太田市の状況を考える中でごみ減量には「何をすれば良いか」だけではなく、もっと大きな視点で「ごみ減量とはなんだろう」という気持ちの方が訴えやすいと考え、以下の提言書（案）を報告する。

2) ごみ減量市民会議提言書骨格（案）

- ・はじめに→太田市はごみ減量化を進めるため、なぜこの会議を発足し進める必要があるかを受けて、各委員が検討してきた内容を述べるとともに最終的には「どの方向に行くか」等も述べていきたいと考える。
- ・過去の太田市のごみ行政は、諸々の課題を抱えながら進んできておりそれを知ることが大事だと思われるので、太田市のごみ行政の経緯を述べたい。
- ・太田市が現在抱えているごみの問題や、社会的背景を加えながらごみ減量の基本的考え方を述べたい。

- ・ごみ減量の施策として【家庭ごみ】と【事業系ごみ】に分けて述べていきたい。
- ・今後の課題として、ごみ処理料金の見直し・一市三町（太田市、大泉町、邑楽町、千代田町）のごみ減量に対して考え方の統一、最終処分場を他市へ委託している課題等述べてまとめたい。

3) ごみ減量市民会議提言書概要（案）

- ・今なぜ「ごみの減量化」なのか？
これは、ダイオキシン・CO₂削減・地球温暖化・生態系の変化による社会状況の影響等、長い間言われていることだが、このことをもう一度考え直すことがこの減量化の基本的考え方である。

ごみ減量化の対応

- ・社会的背景
ごみについては、各種リサイクル法ができ、家電・プラスチック等を含めて、リサイクル法が整備され、製造者責任が明確化されている。それに対応して、ごみの扱い方が常に変わってきているという現実がある。
- ・問題点の把握
ごみの分別・資源化の必要性・ごみ出しの不公平感等これは豊かな生活とごみの量からわかることで、生活が変わってくることによってごみの性質が変わってくるという内容を理解し整理する必要がある。また、現在の焼却炉の延命化と新焼却炉建設の建設費削減等の位置づけ等も整理する必要がある。太田市は、ごみの最終処分場を所有していないため、委託料を支出して他市へお願いしている。その支出を少しでも抑えるために「ごみ減量」を考えていく必要がある。
- ・総合的な廃棄物行政の考え方
社会的背景や問題点の把握をまとめて、ごみ分別の必要性和重要性の再認識をしなければならないと考える。

ごみ減量化の施策

【家庭ごみ】

- ・ごみ減量化への意識・啓発について

ごみ減量の意識を高めるために、年次計画を作成して、広報や説明会での周知、または、講演会やシンポジウム等を開催することが必要である。

- ごみ分別の徹底について
ごみの分別についての必要性を整理し、市民等が統一した方法でごみの分別ができるように、ごみ分別の仕方等を徹底的に周知する必要があります。
- ごみ行政の経費と環境責任について
ごみの最終処分場までのごみ処理経費については、市民が平等に支払うような施策を考える必要がある。
- 不法投棄と対策について
ごみ減量を進めると不法投棄が増える傾向にある。そのことについての施策を考える必要がある。

【事業系ごみ】

事業系ごみについては、企業の運営の中でやっていただくものであるため、事業者には排出の徹底・理解を十分に深めていただき、家庭ごみとの区別を法的に位置づけ、理解してもらえるような施策を市としておこなうべきと考える。

今後の課題

- ごみ減量には、ごみ処理料金の見直し等があるが、具体的な金額等については、今回の提言書では、むずかしいが、近々に見直す必要があると考える。
- 新焼却炉を建設にあたり、一市三町のごみが集まることで、ごみの共通理解を深めてもらい、ごみ減量等の地域差が生まれられないような施策が必要である。
- 自分たちが出したごみは、自分の地域内で処理でき、市の責任よりも市民が責任もてるような体制が必要と考える。

②ごみ提言書の協議について（自由討論）

- 委員 ごみ等の中にダイレクトメール等が多いがそれを断ることができるか？また、分別等はじめると、個人情報等の機密文書等が外に漏れる可能性があるため、それをどのように考えるか。
- 事務局 ダイレクトメールの受け取りは断ることは可能。また、処理の仕方については、個人情報等だけ燃えるごみに入れ、その他は雑がみとして資源ごみとして分別する方法あるが、各委員はどうしているか参考までにお聞きしたい。
- 委員 個人情報、小さく切り取り、燃えるごみに入れます。その他はすべて資源ごみとして分別している。
- 事務局 今後も、そのような方法で分別排出していただくようお願いしたい。
- 委員 ごみの減量と、循環型社会づくりは共に進めるべきである。それには、4Rの周知徹底をして市民に浸透する必要があると思う。
- 委員 物を生産、販売する段階で、過大包装とかしないでごみにならないよう作ることができないものだろうか？
- 事務局 それは、4Rの中のリフューズ（ごみを発生させない）という考え方であり、今後、4R事業を推進していく中で可能と考える
- 委員 ごみ減量市民会議提言書（案）の概要が固まってきたが、大事なものは、それをいつ・どのように実行に移すかである。ごみの問題は、やさしいようでむずかしいことであり、机上論で「ごみ減量をおこなしましょう」だけでは、ごみ減量の実現はない。
市内にいくつかのモデル地区等を選定して、市と行政区、市民が一体となって、ごみ減量に向けて本気で取り組み、その成果を全市に拡大をしていくことが大事である。
- 委員 ごみ問題は他人ごとでない。市民一人一人のモラルが大事であり、それを気付かせるような啓発が必要。

委員 「その他プラスチック」について、半分位は燃えるごみで捨てられていることを考えると「その他プラスチック」は資源ごみになるよう周知をして、収集すれば、もっとごみは減ると考える。

委員 「その他プラスチック」は、資源ごみとして分別しているが、大量に溜まる。収集日まで家に置いておけないので、仕方なく一部を燃えるごみとして出すというような事も聞いている。資源ごみの回収の回数等を増やし、燃えるごみになるのを減らす工夫が必要。
また、先程、委員から話があった4Rの徹底だが、市民にはあまり浸透してないので、ステーション等に4Rの内容を書いた看板等を貼りつけて周知・徹底した方が良く考える。

委員 4Rの内容をステーション等に貼るのは良い考え方だが、それだけではなく、各行政センターでおこなっている講座やサークル活動に赴いて説明することも大事である。

委員 先程話があった過剰包装の件だが、事業者が無駄な包装は減らすような努力をしてもらうよう啓発をしていかなければならないと思う。
また、イベント等を企画してごみの出し方のクイズ等を行うことも良い。

委員 ごみを分別しても総体的には、ごみの量が減らない。ごみを発生させないことが大事であり、市民に自分自身のライフスタイルを見つめなおすような気持ちにさせる方法を考えたい。

委員 ごみ減量は、ごみを発生させないことが第一だが、買い物に行くとトレイや発泡スチロール等が溜まってしまふ。今は、これらの容器に入れて物を販売しており消費者にとっては防げないことである。
ごみの減量には、事業者の努力も必要だと考える。海外等では、容器包装は簡易であり、日本でも事業者の責任として、これらを減らす工夫を考えるよう仕向けるべきだと思う。

委員 昔は、量り売りで物を売っており、買うときは、自分で容器を持参していた。今でもそのような買い方もあるが、ほとんどの商品は無理である。
そのために様々なリサイクル法ができて、トレイ等などは、資源と

して再利用しようという仕組みができていますが、市民にはこの分別が負担になっている。例えば、トレイ等は洗わなければ資源にならないものが多いからである。

しかし、ごみ減量を目指し、環境を守るためには、多少厄介だが、分別する必要性を市民に理解してもらい、統一した分別の方法を周知・徹底することが大事だと考える。

委員 市民によっては、分別はめんどくさいと考えてやらない人もいる。そういった人達にどれだけ分別のやる気を起こさせることが大事である。

委員 生ごみ等、土から出たものは土に還すことが大事である。

委員 ごみ減量の意識の低い人にどれだけ分別を理解させるかが大事であり、本提言書の役割と考えている。

委員 太田市がごみの有料化になった時には、ごみをなるべく出さず、詰め方等工夫して、ごみ袋をなるべく節約するようにしていたが、今ではマンネリ化してしまい、当時の2倍くらいごみを出してしまうと聞いたことがあった。このことは、太田市の燃えるごみの排出量がだんだん多くなってきていることを、この市民会議の資料で知り納得した。市民の意識では、この考え方が大半であるように思う。ごみ袋の値段を上げ、再度、ごみ減量について市民が考えるきっかけをつくることもやむを得ないのではないかと思う。

委員 太田市内全域のスーパー等小売店が、レジ袋の有料制を導入した方が良いのではないか。そうすれば、マイバックを持参する人が増えて、レジ袋分のごみが減量になると考える。

委員 ごみ処理費について、市民に分かり易く周知した方が良いと考える。そうすれば、ごみ処理にどれだけの費用がかかっているか理解できれば、ごみ減量の意識が高まると思われる。

委員 ごみ減量するには、どうしたらいいかという抽象的な考えではなく、年次計画を立てて、具体的なごみ減量施策を実行する必要があると考える。

委員　ごみの減量については、まずできることからやってみるというのが大事である。この提言書が一つのきっかけになれば良いと考える。

4. その他

- ①次回の会議は、日時　1月29日（水）13時30分～、
場所　太田市清掃センター3F厚生室で行います。